

名古屋大学附属図書館研究開発室
年次報告
2024

*Annual Report of Nagoya University
Library Studies 2024*

目 次

I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程	1
II. 室 員 名 簿	2
III. 事 業 報 告	3
IV. 研究開発概況	5

I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日規程第 177 号

改正令和 2 年 9 月 14 日名大規程第 99 号

(設置)

第 1 条 名古屋大学附属図書館に研究開発室を置く。

(目的)

第 2 条 研究開発室は、名古屋大学附属図書館における学術情報の収集、保存、提供等の教育研究支援活動に関する研究開発及び図書館情報教育並びに図書館業務への支援及び助言を行い、もって図書館の機能の強化を図るとともに、高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

(室長)

第 3 条 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。

2 室長は、研究開発室の業務を掌理する。

(室員)

第 4 条 研究開発室に、専任室員を置くことができる。

2 専任室員は、本学大学教員のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、東海国立大学機構の長が任命する。

3 第 1 項に定めるもののほか、研究開発室に兼任室員を置くことができる。

4 室員は、室長の指示に従い、研究開発室の業務に従事する。

(雑則)

第 5 条 この規程に定めるもののほか、研究開発室に関し必要な事項は、附属図書館長が定める。

附則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附則(令和 2 年 9 月 14 日名大規程第 99 号)

この規程は、令和 2 年 9 月 14 日から施行し、改正後の第 4 条第 1 項の規定は、令和元年 7 月 1 日から適用する。

Ⅱ. 室員名簿

	氏名	専門領域／所属・職名／着任
室長	佐久間 淳一	言語学 副総長（図書館担当）、附属図書館長 人文学研究科・教授 2020年4月～
兼任室員	松原 茂樹	自然言語処理・デジタル図書館 情報基盤センター・教授 2023年10月～
兼任室員	小田 昌宏	機械学習・医用画像処理 情報基盤センター・准教授 2023年10月～
兼任室員	頼 偉寧	認知科学 教養教育院・特任准教授 2014年4月～
兼任室員	斎藤 夏来	日本史学 人文学研究科・教授 2017年4月～
兼任室員	石川 寛	日本史学 人文学研究科・准教授 2010年4月～

Ⅲ. 事業報告

①室員及び研究開発内容

室長	佐久間 淳一	全体統括 デジタル人文社会科学の推進に向けた検討
兼任教授 兼任准教授	松原 茂樹 小田 昌宏	(1) 学術データの管理・公開・利活用のための研究データ ガバナンスの構築 (2) データリポジトリの自動生成に向けた学術論文テキ ストの解析 (3) オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方 の検討
兼任准教授	頼 偉寧	(1) Develop a series of Nagoya University library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing”. (2) Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp. (3) Develop teaching materials for the workshop Series.
兼任教授	斎藤 夏来	(1) 高木家文書のうち、とくに御用日記類について、翻刻、 デジタル化作業を進める。 (2) 附属図書館や文学部など学内所蔵古文書類の調査、研 究、公開活動を継続する。
兼任准教授	石川 寛	(1) 高木家文書の文化庁調査に向けた整理作業および修理 事業 (2) 高木家文書の補遺および東高木家治水文書の調査・ 整理 (3) 木曾三川流域の歴史資料を中心としたコンテンツ開発 と地域連携強化

②活動概況

■ 学術データ基盤整備事業	
学術データ基盤整備部会、学術データ基盤整備ワーキンググループとの協働による学術データ基盤整備事業	通年
デジタルアーカイブプラットフォームの移行に伴う運用体制整備、データ利活用に関する検討	通年
■ 教育学習支援事業	
Library workshop series on logical thinking skills for academic writing	2024年6月5日, 12日
■ 重要文化財「交代寄合西高木家関係資料」(高木家文書)の保存活用事業	
重要文化財「交代寄合西高木家関係資料」国庫補助修理事業(高木家文書の保存活用事業)	通年
常設展「高木家文書にみる木曾三川流域の歴史・環境・技術」	通年
高木家文書のデジタル化(オープンアクセス加速化事業補助金による実施)	通年
■ 社会貢献事業	
第20回名古屋大学ホームカミングデイ図書館企画 交代寄合西高木家関係資料第I期修理事業記念 講演会・特別展示「文化財をまもり、つたえる」	2024年10月19日
■ その他	
図書館の新グランドデザイン検討ワーキンググループ	第1回(2024年5月)～第5回(2024年12月)

③刊行物

名古屋大学附属図書館研究年報 第22号	2025年発行
名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告2024	2025年発行

IV. 研究開発概況

■ 佐久間 淳一（室長・副総長（図書館担当）・附属図書館長・人文学研究科教授）

■ 研究開発事項

全体統括

■ 成果のリスト

[その他の役割]

1. 国立大学図書館協会理事館館長
2. 国立大学図書館協会システム委員会委員長
3. 東海北陸地区国立大学図書館協会会長
4. 東海地区大学図書館協議会会長
5. 東海地区図書館協議会会長
6. 名古屋大学高等教育研究センター主催学生論文コンテスト審査員

- 松原 茂樹（兼任室員・情報基盤センター教授）
- 小田 昌宏（兼任室員・情報基盤センター准教授）

■ 研究開発事項

- (1) 学術データの管理・公開・利活用のための研究データガバナンスの構築
- (2) データリポジトリの自動生成に向けた学術論文テキストの解析
- (3) オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方の検討

■ 図書館サービスへの発展性

- (1) 学術データの取扱いに関する指針を整備し、本学におけるデータ公開活動を促進
- (2) AI の活用により機関リポジトリを拡張し、研究データの発見可能性を向上
- (3) 大学図書館機能のデジタル化を前提とした新しいデジタルライブラリーの展開

■ 研究開発概況

- (1) 学術データの管理・公開・利活用のための研究データガバナンスの構築
 - ・ 学術データの適切な管理・公開・利活用を支援する目的で、研究データ管理に関する Chatbot「チャットRDM」(<https://slp.itc.nagoya-u.ac.jp/e-science>)の実験運用を開始した。また、名古屋大学の学術データ管理・公開・利活用支援サイトを運用している(<http://rdm.nagoya-u.ac.jp>) [論文 5] [講演 2]。
 - ・ 文部科学省「AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業（2022-2026）」の「ルール・ガイドライン整備チーム」のリーダー機関として、研究データ取扱いガイドラインの整備、及び、メタデータスキーマの設計に取り組んだ [論文 8,10] [講演 2,6,10,11]。
 - ・ 大学間の地域連携による研究データエコシステム拠点の形成を目指し、「研究データエコシステム東海コンソーシアム」を設立した。東海地域を中心に31の学術機関が参画し（2025年2月現在）、研究データ資源（知識，方法，人材）の共用を進めている [講演 1,4,5,7,9]。
- (2) データリポジトリの自動生成に向けた学術論文テキストの解析
 - ・ 研究データリポジトリ構築の加速化を目指し、論文テキストから研究データのメタ情報を獲得する手法を開発している（科学研究費・基盤研究（B））。論文に出現する URL 引用に着目し、その周辺テキストを活用する仕組みを実現した [論文 4,11] [講演 8]。
 - ・ 学術論文では様々な資源を URL 等の識別子を用いて参照する行動が浸透しつつある。様々な分野の論文データを対象にその動向、及び、利用可能性について考察した [論文 1,6,7,9]。
 - ・ 被引用数による定量的な評価でなく、論文の貢献を質的に評価する仕組みを

研究開発している（科研費・挑戦的研究（萌芽）。論文テキストにおける引用要否で判別することで、その引用の重要度算定に活用する[論文 2,3]。

(3) オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方の検討

- ・ 東海国立大学機構「図書館の新グランドデザイン検討ワーキンググループ」の委員として、第1回（2024年5月）～第5回（2024年12月）で開催されたWG会議において本学における図書館の将来構想に関して助言を行った。
- ・ 文部科学省『「2023 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会』の委員として、新しい「デジタル・ライブラリー」の在り方について検討し、海外の動向や先進的な事例を含めて検討した。
- ・ 大学ICT推進協議会「研究データマネジメント部会」において、「研究データ管理（RDM）は研究活動をどう促進するか」をテーマにAXIES2024企画セッションを開催し、全国的な事例形成に取り組んだ[講演 3]。

■ 成果のリスト

[論文]

1. 伊藤 滉一郎, 松原茂樹: データセット間の関連性推定におけるメタデータの利用, 言語処理学会第31回年次大会論文集 (2025).
2. 和田和浩, 角掛正弥, 松原茂樹: URL引用の要否判定において学習データの品質とドメインが与える影響の分析, 言語処理学会第31回年次大会論文集 (2025).
3. Kazuhiro Wada, Masaya Tsunokake, and Shigeki Matsubara: Citation-Worthy Detection of URL Citations in Scholarly Papers, Proceedings of the 2024 ACM/IEEE Joint Conference on Digital Libraries (JCDL-2024) (2024).
4. Yu Watanabe, Koichiro Ito, and Shigeki Matsubara: Capabilities and Challenges of LLMs in Metadata Extraction from Scholarly Papers, Proceedings of the 26th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL-2024), Vol. 15493, pp. 280-287 (2024).
5. 和田 和浩, 松原 茂樹: 講演会の質疑応答を活用した生成 AI チャットボットの開発～大学における研究データマネジメント推進の支援～, 大学 ICT 推進協議会 2024 年度年次大会論文集, pp. 138-142 (2024).
6. Kazuhiro Wada, and Shigeki Matsubara: The Power of URLs in Scholarly Papers: Their Role as Metadata Sources for Data Repositories, Proceedings of the 26th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL-2024), Vol. 15493, pp. 85-92 (2024).
7. Koichiro Ito, and Shigeki Matsubara: Estimation of Relevance between Datasets for Enhancing Accessibility of Research Artifacts, Proceedings of the

26th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL-2024), Vol. 15493, pp. 97-106 (2024).

8. 能勢正仁, 新堀淳樹, 三好由純, 堀智昭, 大平司, 岡本麻衣子, 直江千寿子, 我喜屋累, 田中幸恵, 相良毅, 青木学聡, 松原茂樹, 高橋一郎, 林秀和, 山田一成, 南山泰之, 田中良昌, 阿部修司, 上野悟, 今城峻, 齊藤泰雄, 芦北卓也, 堀優子, 清水敏之, 岡村奈々子, 平野かおる: 研究データをより見つけやすくするためのメタデータ変換と学術機関リポジトリへの登録: 太陽地球系物理学分野における実践, 情報の科学と技術, Vol. 74, No. 11, pp.487-493 (2024).
9. Koichiro Ito, and Shigeki Matsubara: Estimating Metadata of Research Artifacts to Enhance their Findability, 2024 IEEE 20th International Conference on eScience (eScience 2024), pp. 1-2 (2024).
10. Nosé M., Shinbori A., Miyoshi Y., Hori T., Ohira T., Hashiba J., Naoe C., Gakiya R., Okamoto M., Sagara T., Aoki T., Matsubara S., Takahashi I., Hayashi H., Yamada K., Minamiyama Y., Tanaka Y., Abe S., Ueno S., Imajo S., Saito Y., Ashikita T., Hori Y., Shimizu T., Okamura N., Hirano K., Bargatze L.: Enhancing Findability and Searchability of Research Data: Metadata Conversion and Registration in Institutional Repositories, Data Science Journal, Vol. 23, No. 40, pp. 1-9 (2024).
11. Kazuhiro Wada, Masaya Tsunokake, Shigeki Matsubara: On an Intermediate Task for Classifying URL Citations on Scholarly Papers, Proceeding of the 2024 Joint International Conference on Computational Linguistics, Language Resources and Evaluation (LREC-COLING2024), pp. 12359-12369 (2024).

[講演]

1. 松原 茂樹: 「大学における研究データポリシーの役割」, 朝日大学 2024 年度第 11 回 FD・第 12 回 SD 研修会 (2025.2)
2. 松原 茂樹: 「大学における研究データ管理: 国内の動向と課題」, 第 4 回北陸地区学術データ基盤セミナー (2025.2)
3. 松原 茂樹: 「研究データ管理は研究活動をどう促進するか: 趣旨説明」, 大学 ICT 推進協議会 2024 年度年次大会 研究データマネジメント部会企画セッション (2024.12) .
4. 松原 茂樹: 「研究データのオープンアクセス化における大学の役割と課題」, 2024 年度第 2 回中部研究支援実務者連絡会 (2024.12)
5. 松原 茂樹: 「研究データエコシステム東海コンソーシアムの活動と展開」, 第 3 回東海地区学術データ基盤セミナー 第 5 回研究データエコシステム東海コンソーシアムセミナー 合同セミナー (2024.12)
6. 松原 茂樹: 「研究データガバナンス構築に向けたルール・ガイドライン整備」, 研

究データエコシステム構築事業シンポジウム 2024 (2024.10) .

7. 松原 茂樹：「研究データエコシステム東海コンソーシアムの形成と展開」，研究データ管理東北コンソーシアム設立準備シンポジウム (2024.10) .
8. 松原 茂樹：「オープンアクセス加速化と自然言語処理」，令和 6 年度第 2 回名古屋大学情報基盤センターコロキウム (2024.7) .
9. 松原 茂樹：「研究データ管理と大学連携：東海地域におけるコンソーシアムの形成と展開」，NII 学術情報基盤オープンフォーラム 2024「地域の力で切り開く、研究データ管理のこれから」(2024.6) ，国立情報学研究所.
10. 松原 茂樹：「研究データガバナンスの強化と研究データポリシーの深化」，NII 学術情報基盤オープンフォーラム 2024「機関の研究データガバナンスとポリシー」(2024.6) ，国立情報学研究所.
11. 松原 茂樹：「オープンサイエンスの推進における研究データポリシーの役割」，私立大学図書館協会東地区部会 館長会 (2024.6) .

■ LAI Wai Ling 賴 偉寧 (兼任室員・教養教育院特任准教授)

■ 研究開発事項

(1) Develop a series of Nagoya University library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing”.

(2) Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp.

(3) Develop teaching materials for the workshop Series.

■ 図書館サービスへの発展性

I have been providing regular workshops on logical thinking skills for academic writing since 2014. In 2024/2025, I will continue the workshops designed for both graduate and undergraduate students.

■ 研究開発概況

(1) Develop a series of Nagoya University library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing”.

The aim of this research is to transform a graduate course into an annual library workshop series titled "Logical Thinking Skills and Academic Writing." The goal of the workshop series is to teach students the necessary components of writing a satisfactory research paper. Specifically, the workshops aim to help graduate students as well as undergraduate students, through step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write an academic paper with a clear thesis statement and convincing support.

(2) Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp.

From 2020, the library workshop series will be used as one of the selection criteria for students who would like to participate in the Mei-Writing summer camp. This means that a wider range of students may join the workshop series as a preliminary course for the summer camp. In order to develop the workshop series into a preliminary course for the summer camp, the primary goal in (1) would have to be adjusted. New teaching methods and materials would have to be developed.

(3) Develop teaching materials for the workshop Series.

A textbook titled “The Thesis Statement Recipe: Textbook for the Library

Workshop Series on Academic Writing and Logical Thinking Skills” was published internally by the library and has been used for the workshop series since 2015. Another newer textbook, “How to Develop Research Originality” was published internally by the library in 2022. It will be used for the workshop series between 2023 and 2025.

■ 成果のリスト

〔論文〕

1. Lai, W. L. “A new approach to writing and thinking education” in ToXiv e-print system. Nagoya University Writing Center. 2024.
2. Lai, W. L. “How to write an attractive introduction” in Annals of Nagoya University Library Studies. Vol 22. p. 21-40. 2024.

〔講演〕

3. Lai, W. L. “Redefining Writing Centers in the Age of AI: A Practical Approach from the Nagoya University Writing Center”. Keynote Talk (Invited). Writing Center Association Japan Symposium. Hiroshima University. February 15, 2025.
4. Lai, W. L. “How we teach academic writing at Nagoya University Writing Center”. Invited Lecture. Tsukuba University. September 30, 2024.

〔国際学会〕

5. Lai, W. L. “A Construction Approach to Reasoning”. The International Symposium on Rationality – Theories and Implications. Osaka Metropolitan University. September 2 – 4, 2024.
6. Lai, W. L. “The Argument Construction Guide”. 5th International Symposium on Academic Writing and Critical Thinking. Nagoya University. February 16, 2024.

〔著書〕

7. Lai, W. L. Begin with One Simple Sentence: the Argument Construction Guide. (Printout of a book written for the Kakenhi Kiban C project.) 130 pages. 2024.

[その他]

8. Lai, W. L. “How to make your writing clear.” Nagoya University Library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing” via Zoom, June 5, 2024.

9. Lai, W. L. “How to make your writing convincing.” Nagoya University Library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing” via Zoom, June 12, 2024.

■ 齋藤 夏来（兼任室員・人文学研究科教授）

■ 研究開発事項

- （1）高木家文書のうち、とくに御用日記類について、翻刻、デジタル化作業を進める。
- （2）附属図書館や文学部など学内所蔵古文書類の調査、研究、公開活動を継続する。

■ 図書館サービスへの発展性

- （1）（2）とも、附属図書館所蔵史資料の学術的価値を明らかにし、さらに高める試みである。

■ 研究開発概況

- （1）高木家文書のうち、とくに御用日記類について、翻刻、デジタル化作業を進める。
 - ・ 学部教育を兼ねて、宝暦六年御用日記の翻刻を進めた。具体的には、宝暦六年正月十五日条から二月六日条までの翻刻を進めた。
- （2）附属図書館や文学部など学内所蔵古文書類の調査、研究、公開活動を継続する。
 - ・ 高木家の旧菩提寺で資料の新出につき情報提供があり、高木家文書内の関連史料の検討に着手した。

■ 成果のリスト

- 〔その他〕 エクセルデータで 75 列分の宝暦六年御用日記翻刻データを作成した。

■ 石川 寛（兼任室員・人文学研究科准教授）

■ 研究開発事項

- （１）高木家文書の文化庁調査に向けた整理作業および修理事業
- （２）高木家文書の補遺および東高木家治水文書の調査・整理
- （３）木曾三川流域の歴史資料を中心としたコンテンツ開発と地域連携強化

■ 図書館サービスへの発展性

- （１）目録の刊行およびデジタルライブラリーへの登録等による高木家文書の利用環境の整備と充実。
- （２）周辺自治体と連携した地域資料の整理を通じて、木曾三川流域の歴史資料の所在情報の共有化を推進。

■ 研究開発概況

- （１）高木家文書の文化庁調査に向けた整理作業および修理事業

1.整理作業

名古屋大学附属図書館が所蔵する高木家文書について、昨年度に引き続き目録整備作業を実施した。

2.修理事業

国庫補助および住友財団の助成を得て、高木家文書の治水関係資料について修理を実施した。第２次３年計画の１年目である。また、第１次３年計画の修理事業終了を記念し、ホームカミングデー附属図書館企画として講演会・特別展示「文化財をまもり、つたえる」を開催した。

- （２）高木家文書の補遺および東高木家治水文書の調査・整理

高木家文書の補遺について整理を進め、東高木家治水文書についても目録作成に向けた調査・整理に取り組んだ。

- （３）木曾三川流域の歴史資料を中心としたコンテンツ開発と地域連携強化

1.高木家文書デジタルライブラリー

オープンアクセス加速化事業補助金の交付を受け、高木家文書の治水関係資料のデジタル撮影を実施し、デジタル化を進めた。

2. 筒井稔氏所蔵文書の寄贈

旧蔵者である故筒井稔氏より、高木家文書・東高木家文書を含む歴史資料の寄贈をうけた。

3. 筒井稔氏所蔵文書の寄贈

北高木家旧臣の立木家に伝来した古文書の寄贈をうけた。

■ 成果のリスト

〔論文等〕

- 1.石川寛「宝暦治水前の普請意見書の分析 その4」『名古屋大学附属図書館研究年報』22 2025年3月
- 2.石川寛「高木家文書デジタルライブラリーの構成とその特色」『名古屋大学附属図書館研究年報』22 2025年3月

名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告

第 23 号 (2024 年度)

2025 年 3 月発行

編集・発行 名古屋大学附属図書館研究開発室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話 052-789-3666
URL <https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/libst/>
E-mail tos-kikaku@t.mail.nagoya-u.ac.jp

